

特別養護老人ホーム

令和元年度は94%（前年比同様）の稼働率となりました。

上半期は安定した稼働率を維持できていましたが、下半期にかけて長期入院をされた方や医療病床への転院された方が続き、新規入所者への対応が遅れた影響により稼働率を下げる結果となりました。

事業計画としましては、施設内会議・研修 93 件実施、施設外研修 70 件参加し、実習生は延 63 名受け入れ、ボランティアの方々は 243 名受け入れております。

短期入所生活介護

令和元年度は92%（前年比2%減少）の稼働率となりました。

長期利用をされていた方の入院が相次いだことにより空床ベッドが長期間続くことが多く新規利用者獲得が速やかに行えなかったことが稼働率を下げることとなりました。

通所介護

令和1年度稼働率は87%（前年比9%増）となりました。

平成30年4月より柔道整復師による機能訓練指導員を配置し、機能訓練のプログラムを強化し加算取得及び機能訓練参加者の定着に繋がっています。定員35名から40名への変更を実施し送迎範囲を拡大15分圏内とし、レクリエーションの企画見直し外部出演ボランティアの協力、その影響もあり利用者数、稼働率の増加にもつながっていると考えます。引き続き、居宅介護支援事業所等への営業活動を行っていきます。

訪問介護

令和元年7月末で1名のスタッフの退職に伴い、訪問回数の減少がありました。他の事業所からのご依頼もいただいている中スタッフの補充が行えず、稼働率の低下につながっております。

居宅介護支援

地域包括支援センターとの連携を行い、年間を通して、安定した稼働率を維持できました。新規の受け入れもスムーズに対応でき、プラン数の確保が行えております。

地域包括支援センター

介護や見守りなど、地域の高齢者に関する総合相談窓口として、また、近隣住民や居宅介護支援事業所から高齢者虐待の疑いの相談対応として、兵庫区あんしんすこやか係と連携しております。

地域における課題について、地域の声や相談受付の分類・データに基づいて分析。そして、民生委員や自治会等の地域支援団体、さらには医療関係者・介護事業所等を交え、地域課題について意識共有、話し合いを行う「地域ケア会議」を開催しております。

また、民児協主催をサポートする形で、「認知症高齢者等声かけ訓練」を実施。地域住民の参加も多くあり、認知症の方に対する声かけ方法や、対応を学ぶ機会を持つことができました。

地域支え合い活動推進事業

地域支援者の高齢化の影響による、友愛訪問ボランティアグループの解散も重なり、次の世代にも、地域見守りに触れていただこうと考え、地域で開かれている、ふれあい喫茶に児童とその保護者を招き、世代間交流を開催しました。

地域見守りの必要性を若い世代に周知できるよう現在も取り組みを行っております。また、趣味活動、集まりの場所を求める地域からの声に対して、「囲碁・将棋サークル」も開催、継続しております。今後は、地域主体で自主的に活動が行えるよう、後方支援の立場で活動しております。

介護機能強化モデル事業（LSA）

ルゼフィール中道住宅の住民の方々に対して、訪問活動や電話による安否確認、また生活相談を行いながら、必要時は行政や担当ケアマネジャー、地域包括支援センター等、各関係機関と連携し、安心して暮らせるための支援を行いました。

住民の高齢化に伴い、各階で住民同士の見守り活動を開始しました。互いに助け合い、見守る。困った時にはLSAに相談し、あんしんすこやかセンターへ引継ぎ、介護の申請を行い、介護保険でのサービス導入へと繋いでおります。

毎月第1・第3木曜日には茶話会を開催し、住民間でのコミュニケーションを図る事を目的とし、住民とLSAが協力し行っております。今後は住民が主体となり居場所づくりの場として活動をしていく予定です。

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームでは、前年度と比較し、入院者の延べ人数は年間 23 人（前年度比 8 人減）、入院延べ日数では、年間 265 日（前年度比 96 日減）と入院者の延べ人数、入院延べ日数共に減少しました。ショートステイや居宅介護支援事業所との連携により円滑に新規入所者を獲得でき、年間平均稼働率は 96% となり前年度と比較し 1% 上昇しました。

施設行事等に関しましては、主に週 1 回施設内で開催されている地域の喫茶ボランティアの方々を通じて利用者様とご家族様との交流を深めることができました。職員の日々の介護技術等の研鑽や、ケアの質向上を目的とし職員間の情報共有を行なう為、施設内会議・研修は 134 件実施、施設外会議・研修には 42 件参加しました。また、ボランティアの方々には約 114 名の受け入れ、実習生に関しましては 80 名の受け入れとなりました。

短期入所生活介護

短期入所生活介護では、特養入所待機利用者様の長期での利用受け入れの促進や急な依頼への迅速な受け入れ対応を行なうことができ、利用者数 669 名（前年度比 69 名増）、延べ利用日数 6676 日（前年度比 101 日増）共に昨年度と比較し増加しました。要介護度別割合につきましては、前年度と変わらず要介護 3 以上の利用者様が 60% 台となりました。1 月の感染性胃腸炎流行に伴う落ち込みは見られたものの、全体としては前年度を上回る稼働状況を維持することができました。

通所介護

通所介護では、ショートステイ併用の利用者様や入院や体調不良等により欠席される利用者様への対応に苦慮した面と曜日毎の利用者数の増減の差が大きい状態が見られました。しかし、日曜日の利用者数の増加やレクリエーションを工夫することにより今年度は稼働率（前年度比 1% 増）、利用者数（前年度比 94 名増）、利用延べ日数（前年度比 269 増）全てにおいて、昨年度を上回る運営ができました。

小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護では、契約入所者数における稼働率は前年度と比較し 2% の減少となり年間平均契約者数は 20 名となりました。しかし通い、訪問、泊まり全てにおいて前年度の利用者数より増加致しました。特に利用者様の細かなニーズにお応えできるよう訪問体制を強化した結果、訪問利用者数においては前年度比 973 回の増加となりました。

居宅介護支援

居宅介護支援では、施設近隣のあんしんすこやかセンターや法人内の居宅介護支援事業所との連携強化を図り、昨年度と同様の安定した稼働状況を維持することができました。要支援者・要介護者別割合につきましても昨年度と同様の結果となりました。

令和元年度 パーマリィ・イン西神春日台

事業報告

特別養護老人ホーム

令和元年度は、開設 9 年目で開設当初より入居されていた利用者が体調を崩される事等の背景もあり、年間で 50 名近くの入退所がありました。前年度と比較すると入退所数は増加傾向にありますが、退去後の部屋を次の方へスムーズに受け入れることで、年間の稼働率は 93%の稼働となりました。

施設行事等に関しましては、昨年度同様に須磨の浦高等学校と青陽須磨特別支援学校と西神戸高等特別支援学校と関わる機会を多く持つ事が出来ました。また、地域でのお祭り行事や榎野台小学校福祉体験学習へ参加させて頂く事で、地域の方々との交流が深まった内容となりました。施設内外の研修は 222 件行い、実習生の受け入れは延べ 95 名となっています。ボランティア活動に関しては、年間で延べ 650 名もの皆様に活動をして頂いています。

ケアハウス

令和元年度は、本館では年間 96%、華邸では 97%の稼働率となりました。前年度と比較すると入退所数はやや減少した一方で、入院者数は増加傾向にありましたが、年間を通してほぼ満床状態をキープし安定した稼働となっております。入居に関しては、各あんしんすこやかセンターや地域の居宅介護支援事業所、近隣病院との連携を図り入居希望者のスムーズな受け入れができました。また本館、華邸の見学や申し込み状況等の情報交換を行い、本館、華邸共に高い稼働率を維持することができました。

短期入所生活介護

令和元年度は、年間で 100%の稼働率となりました。入所待ちロングショート of の積極的な受け入れや他事業所との連携強化にて、前年度と比べ稼働率が上昇する結果となりました。また、特別養護老人ホーム入院中の空床利用も継続的に行い、高稼働率を達成する事ができました。

通所介護

令和元年度は、年間平均 85%の稼働率となりました。月に約 4 名の新規利用者を獲得できたことで大きな稼働率の低下を防ぐこともでき、居宅介護支援センターや地域包括支援センターと連携を密に行い、地域の方へ安心してご利用して頂く事ができました。

訪問介護

令和元年度は、年間平均 60%の稼働率となりました。居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を密に行う事で関係性を築き、新規獲得数は前年度より増加傾向となりました。サービス・質の向上につきましては、個々の利用者ニーズに対応ができており、訪問介護としての役割を担うことができました。

居宅介護支援

令和元年度は、ケアマネ入退職に伴い、担当件数の変動があり年間平均 87%の稼働率となりました。同区内あんしんすこやかセンターとの良好な関係性が維持出来ており、毎月、新規獲得ができました。迅速且つ的確に困難ケースの対応を行い、地域高齢者やご家族に寄り添った、より良い支援を目指した運営ができました。